

DiMM エントリー募集再開と国内認定エントリー募集休止継続に関するお知らせ

2020年3月12日

日本登山医学会認定山岳医委員会委員長
山岳医制度検討ワーキンググループ代表
草鹿 元

日本登山医学会は登山医学に関する専門家の学術団体です。学会となって15年を経過し、登山医学の推進とともに、得られた高所での病態や対応に関する研究成果や経験をもとに、山岳地域での診療等、医療の実践と知識の普及活動を通じて、国内外の登山者の安全、さらには高地を訪れる海外旅行者の安全にも貢献する学術団体です。

これまで、本学会は、国際山岳連盟医療部会(UIAA Med Com)、国際山岳救助協議会(ICAR)、国際登山医学会(ISMM)に認定されたカリキュラムによって、International Diploma of Mountain Medicine (DiMM)と、「日本登山医学会認定国内山岳医」の二つの制度をまとめて運用してきました。つまり、国内山岳医制度は、本学会認定でありながら、国内山岳医療の経験や能力のためのカリキュラムではなく、DiMMのためのカリキュラムを部分的に借りて実施してきました。この間も、わが国の山岳医療の中心となっている医師の多くは、DiMMや認定国内山岳医制度と関係なく、夏山山岳診療所・救護所や登山者検診ネットワーク等において実臨床の診療活動を展開しています。このため、山岳診療所における活動等、国内山岳医療の実践と乖離した状況になってしまったことは否めません。

そこで、本学会として、課題を整理し、学会本来の活動に照らした制度を構築するため、2019年7月から、理事会が設置したワーキンググループにおいて検討を重ねました。具体的には、それまで制度構築に関わった方々へのヒアリング、改訂を重ねながら実施してきたカリキュラムの分析とUIAA/ICAR/ISMMから提示されている新カリキュラムの分析、そして夏山診療所・救護所管理者等から意見を求め、求められる山岳専門医像を明確にし、学会活動としてあるべき制度を見据えて、新制度案を策定しました。そして、2020年1月～2月、本学会ホームページ上に開示して広く意見を募集し、寄せられた意見をもとに新制度案を修正しました。2020年2月末日時点で、確定した新制度案を理事会に諮る段階にありました。この間、すでにエントリーしている方々のクラスは実施しつつ、新規エントリーを延期していました。しかしながら、新型コロナウイルス対応のため、予定された理事会が延期になり、新制度案は2020年3月12日現在、理事会承認待ちの状態にあります。

今般、新制度導入が予定されているなかで、DiMMのエントリー募集は再開しましたが、国内山岳医のエントリーについてはひきつづき休止しています。関心をお寄せの会員各位には、新制度導入を見据えて、待機していただきますようお願いいたします。